

気になる聞こえの耳よりなお話?



こんなこと、ありませんか?

「最近なんだか話が聞き取りにくいな。」
「家族からテレビの音が大きいと怒られる。」
「こといったことはございませんか?もしかすると「聞き取る力の低下」、即ち難聴があるかもしれません。」

難聴は世界で最も多い神経疾患として知られています。全世界で現在4億6600万人が悩んでおられ、そのうち3400万人が小児患者です。難聴は幼少期では言語発達の遅れの原因に、成人期では認知症、うつ病、社会的孤立などの原因になる可能性があるとされています。難聴には様々なタイプが存在します。一口に難聴と言ってもその原因によって治療法は大きく違います。



早期発見から専門治療へ

落合病院では、毎週火曜日と土曜日に岡山大学所属の耳鼻科医が勤務しており、スムーズに専門治療へとつなげる体制を整えております。耳、鼻、のど、鎖骨より上のできもの、めまいなどお困りの事がございましたらお気軽にご相談ください。

《文責》耳鼻咽喉科 大道亮太郎

落合病院の耳鼻咽喉科担当医



おおみち りょうたろう
大道 亮太郎 医師

診療日
火曜日(毎週)・土曜日(週交替)

所属
岡山大学病院



医師・医学博士
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医
補聴器相談医
緩和ケア講習会修了/嚥下機能評価研修会修了

- 平成22年3月 鳥取大学医学部医学科卒業
- 平成22年4月 岡山大学病院卒後臨床研修センター 初期研修医
- 平成24年4月 岡山大学耳鼻咽喉・頭頸部外科入局、同院医員
- 平成24年10月 香川県立中央病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医員
- 平成26年11月 岡山大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 医員
- 平成30年2月 米国 アイオワ大学 Molecular Otolaryngology and Renal Research Laboratories 博士研究員
- 令和2年8月 岡山大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 医員

診療日 土曜日(週交替)
所属 岡山大学病院

診療日 土曜日(週交替)
所属 岡山大学病院

診療日 土曜日(週交替)
所属 岡山大学病院

診療日や担当医は、お電話・ホームページ等でご確認ください。

急に聞こえが悪くなった

突発性難聴という病気の可能性があります。その場合、**発症から7日以内**の治療開始が推奨されていますので、お早めにお近くの耳鼻科に受診をお願いいたします。

徐々に聞こえが悪くなった

程度、原因によって治療法が大きく変わります。その内、軽度から中等度難聴に対しては、**補聴器**が多く用いられています。補聴器はメガネとは異なり、かけただけでは効果が出ません。長時間装着することによる脳のトレーニングや、補聴器内部のコンピュータの適切な調整が必要です。いまいち効果が実感できない場合には一度耳鼻科での診察をお勧めします。

高度から重度難聴に対して、**人工内耳**という機器を手術で植え込むことが一般的になってきました。岡山大学では日本の中でも導入が早く、すでに4半世紀以上の歴史があります。「補聴器を使用しているけど、ご家族の話が半分くらいしか聞き取れない」というような場合には一度耳鼻科での相談をお勧めします。

そのほかの症状

「鼓膜に穴が空いている」、「耳だれが時々出てくるが放っておいている」、「最近耳が詰まったような聞こえが続く」というのも耳鼻科にぜひ受診いただきたいサインになります。これらの場合、手術による改善が期待できるかもしれません。近年では耳の筒に直径

生まれつき聞こえが不自由

小児にもこの人工内耳植え込み手術を行うことが一般的になってきています。その適応を判定する上で最も大事なことは、**新生児聴覚スクリーニング**という検査を生後1ヶ月以内に受けていただくことです。

岡山県は全国に先駆けて平成13年7月より検査事業を開始しており、モデルケースとしてこの検査は全国に広がっています。先天性疾患の中でも500人に1人という非常に頻度の高い疾患であるため、必ずこの検査を受けていただくことをお勧めいたします。人工内耳を利用することで、これまで手話などの聴覚以外のコミュニケーション手段に限られていた児童でも、音声によるコミュニケーションが可能となり、通常学級に進学する方が増えてきました。新生児聴覚スクリーニングで異常がなくても、成長とともに聴力障害が進行してくるケースもありますので、1歳半健診、3歳児健診を受診いただき、早期発見に努めることが大切です。

岡山大学病院は全国的にも人工内耳手術件数の多い病院ですので、疑われる場合にはお近くの耳鼻科でまずご相談いただければと思います。

2、3mm程度の内視鏡を入れて行う**内視鏡下耳科手術**という方法が発展してきました。従来であれば耳の後ろに5cm程度の傷跡が残っていましたが、それが不要になるケースも増えてきています。岡山大学でも積極的に活用しています。ただし、その方法については適切に選択する必要がありますので、まずは耳鼻科に受診いただき、担当医とご相談ください。